

商都・堺復活へ住民期待

堺市が一日、政令指定都市としてスタートした。よみがえれ「黄金の日々」――。「東洋のベニス」復活やサッカー日本代表の練習拠点誘致など、かつての商都復活へ、行政も様々な手を打つ。

「選挙はどうなるの?」「行政サービスは?」――。華々しいイベントとともにスタートした全国十五番目の政令市昇格に期待と注文を寄せた。

(一面参照)

政令市スタート

サービス充実望む声

区役所が開所

堺市庁前ではこの日午前十時から新しい堺区役所の開所式が行われた。番所護区長(57)は「四十年來待ち望んでいた。区民生活が向上するよう魅力と活力あふれる街にしたい」と宣言。関係者らがテープカットを行い、地元小学校の児童らによる吹奏楽の演奏が政令市の門出に花を添えた。

政令市移行で選挙の運営を市から七行政区の選挙管理委員会が担当することになる。堺区役所に来た自営業の男性(50)は「投票率が低下する中、独自の工夫で区民への選挙啓発に力を入れてほしい」と要望。主婦(43)は「子どもの安全など住民が気付いたことを時間をかけて行政サービスにつなげる区になってほしい」と話していた。

開所式に先立ち、堺市七・五町の「西高野街道」から大阪府河内長野市まで南下するウォーキングで足跡を巡りながら約千二人が堺市庁前をスタート。



政令市移行記念ウォーキングイベントで堺市役所前を出発する人たち(1日午前)

青写真①―サッカーの聖地

協会公認の練習場

サッカー日本代表の強化合宿などに使う練習場「ナショナルトレーニングセンター」の建設は、市が進める「都市の魅力づくり」の目玉の一つ。誘致を成功させた市長公室企画部は、関西、西日本のサッカーの聖地、といえは堺。そう全国から呼ばれる拠点にした

08年度完成

協会が認定した国内最大級の施設。天然芝と人工芝のグラウンドを十三面以上整備し、フットサル場や練習見学の観客席なども建設する。〇六年度中に市臨海部で着工し、〇八年度中に完成させ一観光客を増やすだけでなく、いずれば堺市の人口増加にも貢献してくれるはず(同部)と期待する。

青写真②―「歴史の街」に

「歴史の街」復活もテーマの一つ。仁徳天皇陵などの古墳群に始まり、千利休、明治時代の歌人の与謝野晶子……生かし切れなかった文化の薫りを漂わせた歴史を、かつてシェークスピアの「ベニスの商人」で舞台となったイタリアの商都になぞらえ「東洋のベニス」とされたイメージ復活を目指す。

東洋のベニスへ

ジウムの開催など百四十二の項目が並ぶ。華やかなセレモニーと対照的に、中心商店街の地盤沈下が進んできたのも事実。市内で居酒屋を営む女性(72)は「これからのきわいを取り戻してほしい」と計画に期待を寄せる。

ただ、隣の大阪市は都市の特色の似通う強力なライバル。堺市博物館の角山栄館長は「復権を果たせるかどうかは、独自の文化を発信できるかにかかっている」と指摘する。

ト。在住二十年の堀尾晋さん(70)は「中世の自治都市の発達を支えた通商ルートを歩きたい」と堺の歴史と未来に思いをはせていた。